

近編

梅香爐
子集
白

全

寛政十年

778-2

俳諧資料カード

年代

寛政十年

編者

(筆者)

書名

梅香爐

備考

(下垣内蔵)

六三二内

此の如く神丹を以て
 のむべし水野の一族にして
 母堂の秘傳に於て氏や神谷と
 傳はるるも其の事ありしに
 下野の一族にして其の事ありしに
 先づ一秘傳に於て天下の
 一秘傳に於て其の事ありしに
 指すも其の事ありしに
 ありし秘傳に於て其の事ありしに
 一秘傳に於て其の事ありしに
 其の事ありしに其の事ありしに
 多しり神丹驗ありて其の事ありしに

龍川金庫

龍川果藏

下垣内和人
 737

下垣内氏

家徳の徳のえ徳とすのぞかかて世法に立建て
りねるるちか守りてとすれは徳せ
人よりサニサるるのちあつての柳子門を
蕭お人よりよ

一又やの遠なる人の志のまよひの苦境
ねる一足れ様ありとすれと所詮とて
又の道直の軌をつらね幻住の誠意を
さつてとすれとすれとすれとすれと

あつたは信と信と信と信と信と信と
本心と心と心と心と心と心と心と心と
く

一徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と
徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と
徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と

一徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と
徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と
徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と

Handwritten text in Arabic script, likely a list or index of items, written vertically from right to left. The text is dense and appears to be a detailed record or inventory.

Handwritten text in Arabic script, likely a list or index of items, written vertically from right to left. The text is dense and appears to be a detailed record or inventory.

Handwritten text at the bottom of the page, possibly a signature or a title, written vertically.

春の風を待つ

春市

春の風を待つ

春市

春の風を待つ

春市

春の風を待つ

春市

春の風を待つ

春市

春の風

春の風を待つ

春市

春の風を待つ

春市

春の風を待つ

田市

春の風を待つ

田市

春の風を待つ

田市

二日 松林舎奥行

春市

春の風を待つ

春の風を待つ

田市

春の風を待つ

田市

おきちんちん新々晴ち

古介

るぼろのねねの標ふね

文耕

又標きりけりとも

お羊
文孝

きりけり張月のつちり

文松

くさかに標の風とおろく

文向

湯うると眠くしきれりお業垣

松孝

馬帽子さるちん修り髪向

三孝

くさかに標の風とおろく

采布

お備まじりおのころ

杜賢

手紙のふり書抑えりり積りお

春虹

おきちんちんおのころ

雨音

おのころの耐し茶碗てあやうり

喬貴

おきちんちんおのころ

旭家

おのころの耐し茶碗てあやうり

冬市

おのころの耐し茶碗てあやうり

服録

おのころの耐し茶碗てあやうり

若くは其の其のけりていふこと

湖月

初めの身一人、おぼた

芳花

ふ深

けり待よこころをあらう

其繁

難いこと初めす

夜北

はつら浦さう

七白

らさうのきよのう

杜水

除くことえか

湖月

し秋も葉のこころ

山

お梅も葉のこころ

湖

結よこころ

芳花

酔よこころ

葉

包よこころ

湖花

田

園真行

後よこころ

五

月さちりしつるのさしとれ

百里

あつちのあつちのあつちのあつち

半曉

あつちのあつちのあつちのあつち

血牙

あつちのあつちのあつちのあつち

成之

あつちのあつちのあつちのあつち

石不

之派

押せらるくはあえたく水難は

李曉

あつちのあつちのあつちのあつち

血牙

あつちのあつちのあつちのあつちの派 百里

○

あつちのあつちのあつちのあつちの派 報 二橋居

あつちのあつちのあつちのあつちの派 今 芝文

五十六のあつちの派 松原舎真行

あつちのあつちのあつちのあつちの派 其水

あつちのあつちのあつちのあつちの派 草長

ふらんぞんもあつらんむ昔もあつらん
春里

酒の解ぬ
禱

たふさくさくさくさくさくさくさくさく
ねき

せむ車のはらとらとらとらとらとら
ひね

はらとらとらとらとらとらとらとらとら
林和

春のはらのよしとらとらとらとら
季由

こらとらとらとらとらとらとらとらとら
有妻

春の源

夕暮れあふあふあふあふあふあふ
ひ雪

草うさよとらとらとらとらとらとらとら
如柳

合らうとらとらとらとらとらとらとら
不及

肌あつとらとらとらとらとらとらとら
有妻

たけの春八景
春の源

志師の志すれ一丸の遠近と床とらとら
空を空の例と勢

ちの用とらとらとらとらとらとらとら
春の源

舞と世にあらざる群の想

叶露

雲の影に木影をたもつて

二云

高き木にさす風をよみ

弄也

起るる遠きくもよも一やうに

其水

冬よりの風をよみ

夜雪

け月のまぶれをよみ

露草

野のつらくもをよみ

斗標

冬露

世に暮れあはれなる木影

叶露

おぼろの雲をよみ

露草

高き木にさす風をよみ

柳枝

秋の香をよみ

里曠

秋の香をよみ

蓬所

又もよみ

田所

冬根木の影をよみ

眼珠

稲の穂に十萬億の影をよみ

冬市

葉のゆくは風のゆくはあき替るよ

天柙

ちよらくちよらく志木のてよは

三枝

ちよらくちよらくちよらくちよらく

池田

園何のくちよらくちよらくちよらく

百峰

おとらくちよらくちよらくちよらく

東の

まよらくちよらくちよらくちよらく

和十

あよらくちよらくちよらくちよらく

夕鳥

まよらくちよらくちよらくちよらく

松李

あよらくちよらくちよらくちよらく

茅吹

あよらくちよらくちよらくちよらく

有妻

あよらくちよらくちよらくちよらく

柙水

あよらくちよらくちよらくちよらく

東丈

あよらくちよらくちよらくちよらく

一呼

あよらくちよらくちよらくちよらく

村子

あよらくちよらくちよらくちよらく

青字

あよらくちよらくちよらくちよらく

夜香

一 山と花の向ふさうさ

香紅

山と花の向ふさうさ

梅里

山と花の向ふさうさ

可明

山と花の向ふさうさ

^ま後集

山と花の向ふさうさ

松魚

山と花の向ふさうさ

^下名

山と花の向ふさうさ

秀里

山と花の向ふさうさ

東葉

一 山と花の向ふさうさ

百回

山と花の向ふさうさ

雨島

山と花の向ふさうさ

茶友

山と花の向ふさうさ

^梅和帝

山と花の向ふさうさ

^五梅志

山と花の向ふさうさ

^梅梅吟

山と花の向ふさうさ

^下文先

高き下陸子の歌くーくわよ

時心

舞をひらけい舞よーらうよふあか

梅史

胎ふーまをーふに舞にーま

室行

山茶花のほくーとんさーのわんれ

玉

初夜中夜のあくーまの松のほ

史

顔けやまよーあてーまふー

ふ者

吉見建中

老作の舞をよまふーしーま舞はまひ

人くーまふーくーまふーまふー

まふーのまふーのまふーのまふー

一向一まふーまふーのまふーのまふー

まふーのまふーのまふーのまふー

のまふー

まふーのまふーのまふーのまふー

後書坊

まふーのまふーのまふーのまふー

まふーのまふーのまふーのまふー

まふーのまふーのまふーのまふー

まふーのまふーのまふーのまふー

七月のまふーのまふーのまふー

批宣

まふーのまふーのまふーのまふー

封単

せいの草のまはるの跡の草のまはる
まはるのまはるのまはるのまはる
二

お母の御印

梅笑くかきつらふらふらふらふらふら
封草

解のほれまはるけり
読書坊

まはるの跡のまはるのまはるのまはる
掘魚

まはるの跡のまはるのまはるのまはる
魚花

まはるの跡のまはるのまはるのまはる
二ねお 里石

おのの跡のまはるのまはるのまはる
冬扇

夕月のまはるのまはるのまはるのまはる
二門

まはるの跡のまはるのまはるのまはる
お花

まはるの跡のまはるのまはるのまはる
海江

まはるの跡のまはるのまはるのまはる
松旭

まはるの跡のまはるのまはるのまはる
一通

まはるの跡のまはるのまはるのまはる
夜香

仲人のまはるのまはるのまはるのまはる
香里

目 けりしは けりしは けりしは

松島

けりしは けりしは けりしは

松島

と井寺 けりしは けりしは

松島

けりしは けりしは けりしは

松島

角力 けりしは けりしは

松島

急録

家へ けりしは けりしは

松島

角へ けりしは けりしは

松島

短 おわ けりしは けりしは

松島

短 おわ けりしは けりしは

松島

短 おわ けりしは けりしは

松島

短 おわ けりしは けりしは

松島

短 おわ けりしは けりしは

松島

短 おわ けりしは けりしは

松島

短 おわ けりしは けりしは

松島

短 おわ けりしは けりしは

松島

まき舟の海舟をまき舟の雨のま

松島

まき舟の海舟をまき舟の雨のま

松島

まき舟の海舟をまき舟の雨のま

松島

まき舟の海舟をまき舟の雨のま

松島

まき舟の海舟をまき舟の雨のま

松島

まき舟の海舟をまき舟の雨のま

松島

まき舟の海舟をまき舟の雨のま

松島

まき舟の海舟をまき舟の雨のま

松島

川舟のつらぬ舟の月をくま

松島

舟のつらぬ舟の月をくま

松島

舟のつらぬ舟の月をくま

松島

舟のつらぬ舟の月をくま

松島

舟のつらぬ舟の月をくま

松島

舟のつらぬ舟の月をくま

松島

舟のつらぬ舟の月をくま

松島

第入りてわやと門まで送てて

松光

よつら風を合らるる中

竹口

阿帳しき神山もむきかひり

松光

まゝうらむけくさるる水音

松光

名簿

木くりにておれりり松光播

松光

工夫とへゆらん空の上をたふ

松光

目と儘のつぐり替やまこれ

松光

三月十九日 松光 筆

さよふてんのか一物のおれりり松光播
筆にてきか違福の中やけよのそり
かきかものありしに別かひのそり
よつら風を合らるる中
進んで三人の床よあまきまのそり
十尺の床とまきま

さくむらあまきまのそり

松光

松光播

松光

松光播

松光

松光播

松光

笠服てんきくも休むきま 知公

酒とくつや連れい得よか 栞吏

踊りのきよよのふんて太有りけ 宝竹

二十余の月くくく月 湖全

悟つてきよれぬ 蝶の風 其水

羽石と膝へあせて筆盤 一之

探せ

雉子のあみ富の モヤ 香留よきつり 六凡

あつちくと雲よせらよせらよ 五葉

作ぬきく雨と雪とあつれ 湖全

雨と雪とあつれとあつれと 其水

雪にきちあつち竹の葉 一之

唐よりてまのえつち和梨の心 三つ坊

四月十九日表のま 志好なる奥り

東明

ちのあとりよけの山せきあつち

文録

お茶の去年の暮しの国のおききよ 不落

松の音もあつくと雨うふ ぬね

さきさきのうらみうらみ 慎行

寺町のあひさむし 故六

風の吹あつり月ととも 孝五

七月十五日 唐の白雲和尚

祖父玄武彦の世に在りし時とて七月十五日とてたゞの志例にまらまらり

お茶の去年の暮しの国のおききよ
松の音もあつくと雨うふ
さきさきのうらみうらみ
寺町のあひさむし
風の吹あつり月ととも

お茶の去年の暮しの国のおききよ

松の音もあつくと雨うふ 斗秋

さきさきのうらみうらみ 青子

寺町のあひさむし 一馬

所くくわくし 神にお仕合 市雪

さきくち 家くくわく 檀餅 松舎

追善手廻 不舍觀音

はりのまゝとむい ちかきくく 業七

あも 記きと ちかきく 又 其水

陽きも 産のり 糸よりきく 五系

きくくく 腰く ちかき 柳さき 柳水

凡のまゝと 解けく 中く 袋も 春里

新く 杖も ちかきく 新鑿

ちかきく 持れ ちかきく 月 六凡

きく 隣く ちかき 白凡

あまきく 杜津く ちかき 湖今

はきり ちかき ちかき 柳水

ちかきく ちかきく ちかき 可明

口の月く ちかきく 歌く 木さき 不及

祐宣より文脈に非たうか之 有妻

刀切き。百の雇人 百回

何久書し書んであつる所書 不居

凡、少しく九巾雨、こしく 如柳

すあ板に板とちこき切きあ 不妻指

三 叶季より待やうくふくぬ 梅里

わくせあはあまもあまの候すつ 孝五

八あ十あふあふあふあ 子取

ころはあをあつくとあつとあつと 其行

あつとあつとあつとあつとあつと 故六

あつとあつとあつとあつとあつと 阿心

あつとあつとあつとあつとあつと 吾報

あつとあつとあつとあつとあつと 未替

あつとあつとあつとあつとあつと 蒲回

あつとあつとあつとあつとあつと 胎象

あつとあつとあつとあつとあつと 枕李

野山草花の心余所の月見

一之

まじりかお森とゆくと牡丹保

黄音坊

名録

水やういじや山より移す

菊長

きり干や口の南一林、委しとこい

春里

せれくと口の氣あはむ程うま

新鱗

上りあわく藤やまの白牡丹

可乃守

一雨、ちうふりけり木の芽うま

願中

木はしと一ちれ涼一とらうてん

橋五

しつとてそらの幕や山はく

秋和

まじりかおの香と色よとて

素木

おるおや眠るの耳は折るま

枝立

染しけと明りてあは木の芽は

白松

又まののきとてあやと螢うま

季由

まじりかおとてあやと螢うま

竹波

はつりつて形つてふかよきあせ

白凡

花の香も早くはつりつてふかよ

山七

をくつりつてふかよきあせ

藤白

おもしろくはつりつてふかよ

赤五

様川か一日様はつりつてふか

防家

よらつりつてふかよきあせ

梅乳

又よ代の色もつりつてふか

一斗

世の中と書はつりつてふか

三交

その月もつりつてふか

杜丸

うきよのふかよきあせ

姑と

花の香もつりつてふか

香五

とら月もつりつてふか

南四

と月もつりつてふか

山七

母の香もつりつてふか

赤五

とら月もつりつてふか

未七

尾の香もつりつてふか

け鳥

南云と南上つらぬ異さるる

芝凡

船より白くきくらの布の像

言佳

其の影くまらぬやうに林かんこも

古亮

とすにきくぬ芝とや雉子の夢

柗子

あふく口の遠くや葡萄 柗

阿子

柗子の口くまらぬやうに牡丹くま

陵瓜

沢の糸染くまらぬやうにあふく

和竹

くまらぬやうにあふくやうに林

柏秀

あふくやうにあふくやうに

千枝

竹のよも袴脱くまらぬやうに

松誠

藤のよも糸染くまらぬやうに

楚山

藤のよも糸染くまらぬやうに

南雪

藤のよも糸染くまらぬやうに

香信

藤のよも糸染くまらぬやうに

和和

藤のよも糸染くまらぬやうに

路友

藤のよも糸染くまらぬやうに

海菜

日影よ歩けりてきつやまの柱 盲人 以善

茶の香やあけ日もさるゝ枝し椽 里旭

男ていもさ波のあしかり田植りな 妻命舎 林里

瓦家よ雨の海ふきあけりさか 林晴舎 可明

白山老師のまやけ入すて百里のりもを
すし切のさひし卒一ははちまのりす
きぬぬいさくもあさきさあて、格香の
一まもさくさあひりてさきしらぬ

あつちのきつりんきつよお除りな 歌作川 梧律

梅の香やるりあしりぞ塚のお 孫和

